

令和5年11月8日

保護者様

横浜市立本牧中学校
校長 高橋 秀吉

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果報告（現3年生）

令和5年4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果を報告いたします。この調査は全国の中学校3年生を対象として実施され、今年度は国語、数学、英語、生活実態の調査となっています。

国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	標準偏差
横浜市立本牧中学校	147	10.3 / 15	69	3.6
神奈川県（公立）	60,261	10.4 / 15	70	3.4
全国（公立）	892,738	10.5 / 15	69.8	3.4

【国語】 全体の正答率は、県や全国の平均とほとんど差異はなかったものの、漢字や語句の知識を問う設問で低い正答率となってしまいました。漢字テストは授業の中で定期的に行っており、生徒の学習習慣も定着しているため、今後はその知識を日常に生かし、学んだ語句や漢字を積極的に使ったり自ら学びを深めたりする働きかけが必要であると感じます。一方で、文章読解についてはどの設問でも正答率が安定しており、特に説明的文章を扱った問題については、県・全国平均と同等、あるいはそれを上回る結果となっています。それぞれの文章の特徴なども正確に捉えられているようです。今後はICTも活用しながら学習した知識の定着を図りたいと思います。

数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	標準偏差
横浜市立本牧中学校	148	7.6 / 15	50	4.0
神奈川県（公立）	60,302	7.8 / 15	52	3.9
全国（公立）	893,114	7.6 / 15	51	3.9

【数学】 全体の正答率としては、県や全国の平均と差異はなかったです。しかし、細かく見ていくと、本校は数と式の問題は県と全国に比べ正解率が高く、基本的な計算等の処理技能が身につけている生徒が多いと思われます。しかし、図形や関数の問題では正解率が低い傾向にあります。また、問題形式が記述式の問題でも県と全国に比べ正解率が低いです。課題としては、評価観点の思考力・判断力・表現力における問題に対して、文章理解能力や既存知識の扱いをより身につける必要があると思います。課題の解決に向け、少人数授業のメリットを生かし、個々にあった指導を継続していきます。

英語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	標準偏差
横浜市立本牧中学校	147	8.5 / 17	50	4.5
神奈川県(公立)	60,318	8.6 / 17	50	4.3
全国(公立)	893,528	7.7 / 17	45.6	4.2

【英語】 全体の正答率として、県の平均とは同等、全国の平均は大きく上回りました。特に領域「聞くこと」「話すこと」、評価の観点「思考・判断・表現」、問題形式「記述式」に関しては県の平均も上回っており、日頃より自分の気持ちや考えを伝え合うなど言語活動中心の授業を継続して行ってきた成果であると考えられます。一方、社会的な話題に関して読んだり書いたりすることに関しては今後の課題であるため、慣れ親しんだ日常的な話題から、少しずつ社会的な話題へと目を向けていく授業を展開していきます。

【生活】 それぞれの%は「当てはまる」と回答した人の割合

Q8. 人が困っているときには、進んで助ける。

全：38.4% 本牧：43.9%

Q11. 人の役に立つ人間になりたいと思う。

全：71.7% 本牧：73.6%

他者を助け、人の役に立つ人間になりたいと思う貢献や献身の気持ちが全国平均より高い傾向にあります。学校生活の中で互いに助け合うなどの社会性を伸ばしていきます。

Q10. 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。

全：31.2% 本牧：37.8%

Q31. 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしたいと思う

全：34.9% 本牧：38.5%

学校に対する親和性、共感性や多様性への理解が全国より高い傾向にあります。本牧の地域は外国につながる歴史も多いことから、多様性への理解が高いと考えられます。引き続き、多様性を認め合い、誰もが安心して過ごせる学校づくりに取り組みます。

Q40. 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、
広げたりすることができた。

全：34.3% 本牧：38.5%

話し合い等の学習をすることで、自分の考えや知識が深まっていることがわかります。割合が高いとは言えませんが、協働的な学習や体験をする中で知的謙虚さなどが育まれると考えられます。

Q33. 1, 2年生の時に受けた授業でPCやタブレットなどのICT機器を使用した。(ほぼ毎日)

全：28.1% 本牧：65.5%

Q34. 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。

全：58.7% 本牧：64.9%

Q65. 家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしているか。(週1回程度以上)

全：22.9% 本牧：47.9%

数値から見ても、本校はICT機器を日常から活用している割合が高いといえます。また日常からICTを使っていることから、学習に役立てる方法を見つけたり、家庭での学習にも抵抗なく利用ができたりしていると考えられます。英語の宿題に取り組む数値にも表れています。

Q37. 1, 2年生の時に受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。

全：30.4% 本牧：34.5%

Q38. 1, 2年生の時に受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

全：22.7% 本牧：27.0%

主体的に取り組む姿勢がみられ、学習に対し、自分から考えて行動する力につながっていると考えられます。しかし、数値の割合としては高くないので、生徒がより主体的に取り組めるような授業づくりに取り組みます。

[問い合わせ先] 副校長

045(623)7094